

カグラエンジニアリング

# 水素ステーション 保安検査業務に注力

LPガス用ペーパーライザー  
トップメーカーのカグラペー  
パーテック子会社で、LPガス  
充填所やオートガススタンドの  
プラントエンジニアリングを行  
うカグラエンジニアリング（玉  
井健一社長、本社・兵庫県西宮  
市）は、水素ステーションの保  
安検査ニーズへの対応を強化し  
ている。

高圧ガス保安法に基づき、水  
素ステーションは完成検査から  
1年経過した日を基準とし、前  
後1ヶ月以内に保安検査を実施  
しなければならない。保安検査  
は、管轄の行政（都道府県や消



兼吉氏

防署）の立ち会いのもと、主に  
検査記録書類や現地での目視確  
認により行われる。各運営事業  
者は約2週間かけて事前に各構  
成機器の自主点検を行い、不具  
合がある場合は万全な状態に整  
備する。検査期間中は水素ス  
テーションの運営は休止するこ  
とになるが、全国100件を  
超え本格的な普及期に入る中、  
ユーザーの利便性を損なわない  
よう、近隣のステーション同士  
の検査タイミングの調整や検査  
工程の効率化が課題となってい  
ている。

一連の検査の中で、カグラエ  
ンジンニングのようなメンテナ  
ンス業者が関わるのは事前検  
査の方だ。業者が請け負う項目  
は運営者が個別に決定するため  
現場ごとに異なるが、圧縮機や  
ディスプレイといった主要構  
成機器は基本的に納入したメー  
カー自身が検査を行う。メンテ  
ナンス業者は安全弁や圧力計、  
温度計といった周辺機器の動作

確認を中心に担当する。  
同社はLPガス充填所やCNG  
ステーションの保安検査で豊  
富な実績を有するが、これらの  
設備は近年減少傾向にある。そ  
こで、今後普及拡大が見込まれ  
る水素ステーションのメンテナ  
ンス業務に商機があると判断、  
事業化に踏み切った。19年5月  
現在、関西で3件、中部で1  
件、九州で2件の案件を抱えて  
いる。また経済産業大臣の指定  
保安検査機関として全国35都府  
県で管轄行政の代理として保安  
検査の実施が可能である（液石  
則・一般則）。

同社の兼吉耕一西部事業所水  
素担当責任者は「水素ステー  
ションの保安検査は吐出圧  
150MPaの超高压ブースター  
の保有が必須であることから国  
内に対応できる業者は限られて  
おり、付加価値の高いビジネス  
でもある。今後の需要拡大が見  
込めれば、水素専任チームの編  
成も検討している。今後は更な  
る実績を積み、将来的にはより  
効率的でコスト削減に貢献する  
検査方法・スケジュールを提案  
するなど、ステーションと運営  
事業者をトータルでサポートす  
るような新事業として育てた  
い」と展望を語る。

ガスレビュー新聞  
水素・燃料電池マーケティング・ブック

HYDRHYTHM (ハイドリズム)  
2019 vol.9